

取締役のT氏は、父親が経営する会社を二十五年にわたり、兄弟で支えてきました。経営全般を任されているT氏は、事業拡大に向けて、新設備・機械を導入しましたが、資金繰りが苦しくなっていました。

こうした状況に父親は、T氏と兄弟を並べて、激しく叱りました。しかし、それが終わると今度は、T氏とその兄弟が従業員を叱りつけていました。そんな悪循環から、社内の雰囲気も、悪化していききました。

倫理法人会に入会して間もないT氏は、社内の悪い流れを一つでも変えたいとの思いから、富士教育センターの「経営者倫理セミナー」の受講を決めたのです。

セミナーで、講師は受講者へ「二泊三日、あなたが勉強できるのは、誰のお蔭ですか」と問いました。それを聞いた瞬間、T氏は自分でお金を払ってここへ来たのだから、誰のお蔭でもないと思ったのです。

しかし、そんなT氏の気持ちを見透かすかのように講師は「皆さんが不在の三日間、会社は動いています。会社で従業員が一所懸命仕事をしてくれるお蔭で、皆さんはここにいられるんですよ」と指摘したのです。するとT氏の脳裏には、怒鳴りつけられた社員の、思いつめた顔が浮かび上がり、これまで、部下の働きについて一度も褒めたことがないことを反省したのです。さらにT氏は、〈家族にも怒ってばかりだった〉と、妻・家族に対する振る舞いが思い出され、これまでの態度を猛省したのでした。セミナーでは、他にも自身の姿勢を反省



## 自らの態度を改めたとき 感謝の思いがあふれ出す

し、視点を変える学びがありました。

例えば、トイレ清掃をすることで自らの心を浄化させることを学びました。トイレ清掃は社員や妻が行なうものだと思っていたT氏は雑巾さえ持ったことがありません。しかし、無言で便器を磨き続けていると、社員や家族の姿が浮かんでくるのです。トイレ清掃さえもしたことのない、至らない自分を社員や家族は支えてくれていたんだと思つたとき、目頭が熱くなってきました。

セミナーから帰宅すると、T氏は、社員や家族に、「これまでの自分は間違っていた、こんな自分を支えてくれてありがとう」と素直な思いを伝えることができたのです。その後のT氏は、会社では、社員一人ひとりと明るく挨拶し、感謝の言葉をかけるようになりました。すると、社員の定着率が上がり、業績も回復の傾向が見られるようになりました。家庭では、妻の美点を褒め、疲れていても、妻の話をしっかり聞くようにしました。今では、家族団らんの時間が増え、妻や子供たちの笑顔に触れる中で、家族を持つ幸せを噛みしめています。

倫理研究所の創設者・丸山敏雄は、『万人幸福の葉』の中で「人を改めさせよう、変えようとする前に、まず自ら改め、自分が変わればよい」と述べています。

T氏が悪循環から脱したのも、〈問題点は社員のせい〉という思いを改めた点にあります。〈取締役である自分が変わろう〉との思いで、視点を変えて、行動に移したとき、好循環の流れへと変わったのでした。